

ペルーの寡頭勢力がカスティーヨ大統領を打倒

マノロ・デ・ロスサントス (Manolo De Los Santos)

Z-net 2022年12月9日

[Peru's Oligarchy Overthrows President Castillo - ZNetwork](#)

2021年6月6日は、ペルーの寡頭勢力に多大な衝撃を与えた日であった。大統領選挙の決選投票で、これまで一度も当選したことがない農村の学校教師、ペドロ・カスティーヨ・テロネスが、50.13%強の得票率で勝利したのである。880万人以上の国民が、極右のケイコ・フジモリ候補に対抗して、カスティーヨの社会改革と新憲法制定を約束するプログラムに投票したのだ。劇的な展開の中で、ペルーの元独裁者アルベルト・フジモリから娘のケイコへと受け継がれた新自由主義と抑圧の歴史的な政治指針が、投票によって拒否されたのである。

その日から、まだ(結果を)信じられない気持ちのまま、ペルーの寡頭勢力はカスティーヨに宣戦布告した。彼らは新政権の18ヶ月を大きな敵対期間とし、法廷闘争を駆使しながら、多方面からの攻撃で政権の不安定を策した。寡頭勢力を率いる経済団体の「全国工業会」が、「共産主義を追放せよ」という掛け声とともに、カスティーヨ政権に国の統治ができないようにする計画を立てられた。

2021年10月に公開された録音が明らかにしたのは、この実業家グループが2021年6月から、ペルーの他のエリートや右派野党のリーダーたちとともに、抗議行動やストライキに資金を提供するなど一連の行動を計画していたことである。フジモリのような極右の政治家と手を組んだ軍人グループは、公然とカスティーヨの暴力的打倒を呼びかけ始め、政府関係者や左派のジャーナリストを脅迫した。

議会の右派勢力もこの計画に参加し、カスティーヨ在任1年間に2度も弾劾を試みた。2022年3月、カスティーヨ大統領は「大統領就任以来、かの政治勢力は、ペルー国民が私たちに与えてくれた選挙での勝利を受け入れていない」と述べている。「議会には(政府を)監視し政治的統制をおこなう権限があるが、憲法で禁止されている権利の乱用や、投票で示された民意を無視して行使するこ

とはできない」と彼は強調した。これらの議員のうち数人は、ドイツの右翼財団から支援を受け、カスティーヨを速やかに罷免するための憲法改正の方法についても打ち合わせをしていたことが判明した。

ペルーの寡頭制支配者たちは、田舎の学校の教師で農民のリーダーだったカスティーヨを決して受け入れることができなかつたが、彼を政権に押し上げたのは、より良い未来への希望を彼に託した何百万人も貧困層や黒人、先住民の人々だった。ところがカスティーヨは、こうした攻撃に直面して、次第に自分の政治基盤から距離を置くようになった。財界をなだめるため4回も内閣を作り、そのたびに右派の要求に屈して、現状に挑戦する左派の閣僚を罷免した。

所属政党のペルー・リブレのリーダーが公然と異議を唱えると、彼は同党と決別した。国内の主要な農民や先住民の運動を動員する代わりに、すでに信用を失っていた米州機構に助けを求め、政治的解決策を模索した。拳銃の果てに、カスティーヨは、大衆からも左派政党からも支持されることなく、一人で戦うことになっていた。

大統領にとって最終的な危機は、2022年12月7日に起きた。数カ月にわたる汚職疑惑、左派の内紛、大統領を犯罪者に仕立て上げようとする複数の企てによってカスティーヨは弱体化し、ついに打倒され、投獄された。議会が賛成101票、反対6票、棄権10票でカスティーヨを弾劾したのをうけて、後任には副大統領ディナ・ボルアルテが就任した。

この投票の数時間前、カスティーヨは議会の解散をテレビで国民に発表した。捜査中の汚職疑惑により「永久的な道徳的無能力」を理由にした大統領弾劾の動議が審議・採決される3時間前に、彼は先手を打ってそうしたのだ。カスティーヨはまた、「例外的な臨時政府」の樹立と9ヶ月以内の立憲議会召集を発表した。立憲議会が設置されるまでは、政令で統治するとした。また、大統領としての最後のメッセージとして、同日夜10時からの夜間外出禁止令を発令した。しかし、この夜間外出禁止令も、その他の措置も、実行されることはなかった。数時間後、カスティーリャは倒された。

カスティーヨは警察署に拘束され、ボルアルテ副大統領が議会で宣誓した。首都リマではいくつかのデモが発生したが、1年半近くかけて行われたクーデターを覆すほどの規模ではなく、ラテンアメリカの急進的変革に対する長い暴力の歴史のなかで、最新の出来事であった。

カスティーヨ大統領に対するクーデターは、ラテンアメリカにおける現在の進歩的な政府の波と、彼らを選出した人々の運動にとって大きな後退となる。人民の最後まで苦しめたたかいなしには、ラテンアメリカの支配的エリートは権力を譲らないことをはっきりと思い起こさせた。そして塵が収まった今、勝者はペルーの寡頭政治家とワシントンの友人たちだけである。(了)

マノロ・デ・ロス・サントス